

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：齋木健一

所属：千葉県立中央博物館

課題名：校庭の雑草観察を題材とした新たな学校・ボランティア・博物館連携教育モデルの開発

1. 課題の主旨

目的-1：理科の苦手な先生でもできる野外観察を：生き物の種類の同定は、自然観察、環境教育の基礎といえる。草木が茂っていても、外来雑草と植樹ばかりなのか、自然に近い林なのかは植物の名前が判らなければ区別できない。しかし、多くの小中学校教諭は植物の名前を知らず、指導することができない。こうした問題を博物館学芸員とボランティアが補うことにより、多くの学校で植物の野外観察を行ってもらうことが第一の目的である。

目的-2：多くの学校で実施できる野外観察を：第二の目的は講師派遣形式でない授業支援モデルの作成である。学校と博物館との連携事業では、多くの場合博物館学芸員が講師として現地に向かう形式が取られている。しかし、講師派遣形式では県立博物館のような担当範囲の大きな館の場合、担当範囲が県全域であるのに対し、連携事業が行えるのは僅かな比率の学校にとどまってしまう。こうした問題を解決するために、本事業では講師派遣形式でない授業支援モデルの作成を行った。

2. 活動状況

(1) 千葉市立全中学校への配布

野草に詳しくない教員でも簡単に校庭の野草を同定・指導できる教材「野草カード」をボランティアの協力の下で開発し、中学校一年理科二分野の単元「身近な生物の観察」に焦点を絞って広報につとめた。その結果、千葉市の殆どの中学校から「野草カード」の配布希望を受け、平成18年2-3月に野草カードの配布を行った。18年5月末に行ったアンケートの結果、3000名以上、つまり千葉市の全中学一年生の半数以上が野草カードによる授業を受けたことが明らかになった。

(2) 教育研究集会理科部会での発表

また本教材は、千葉市教育委員会指導課においても高い評価を受け、千葉市教育委員会発行の年間指導計画にも掲載された。さらに6月には、本教材を活用した授業が教育研究集会理科部会で行われ高い評価を受けると共に、改善に向け活発な議論が交わされた。

(3) ウェブサイト公開準備

本教材を配布後、毎年継続的に使用していただくためには、授業例の提示や、野草カード追加などのアフターサービスが欠かせない。このために、授業例の紹介、野草検索サイト、野草カードのダウンロードなどを可能とする、ウェブサイトの公開を準備している。現在は試験運用中で、モニター登録をしていただいた先生方へのみ URL を公開している。URL は <http://sc.ice.or.jp/yasou/> である。(もちろん

ん日産科学振興財団の先生方にはご覧いただけます)。

3. 結果

(1) 千葉市の中学生 3000 名が利用

平成 18 年 2-3 月に野草カードの配布を行った。18 年 5 月末に行ったアンケートの結果、3000 名以上、つまり千葉市の全中学一年生の半数以上が野草カードによる授業を受けたことが明らかになった。

(2) 千葉市教育委員会発行の年間指導計画に掲載

千葉市教育委員会発行の平成 18 年度年間指導計画にも掲載された。

(3) 教育研究集会理科部会での発表

本教材を活用した授業が教育研究集会理科部会で行われ、高い評価を受けた。

4. 今後の課題と発展

(1) 教材「野草カード」の普及に向けての活動

- ・県内外の理科教育関連学会、中学校理科部会や教育研究集会、各種研究会等にて「野草カード」を紹介するワークショップや発表を行い採用を呼びかける。
- ・希望校へ野草カードを配布する。

(2) 教材「野草カード」の改良にむけての活動

- ・「野草カード」による授業実施校で授業を参観し、使用法や改善点の取材につとめる。
- ・来年度に向け、現在のカードに欠落している野草の取材を行う。
- ・実施校へのアンケート調査を実施する。
- ・ウェブサイトの改良を行う

(3) 成果の公表

- ・理科教育学会にて成果を発表する。
- ・ウェブサイトにて授業記録、資料等を公開する。

(4) カードの量産

- ・野草カードを多忙な先生方に使用していただくためには、こちらで完成品を作成する必要がある。150 校分を作成する予定である。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

延長申請をお認めいただきまことにありがとうございます。期待を裏切らないよう精一杯努力する所存でございます。

。